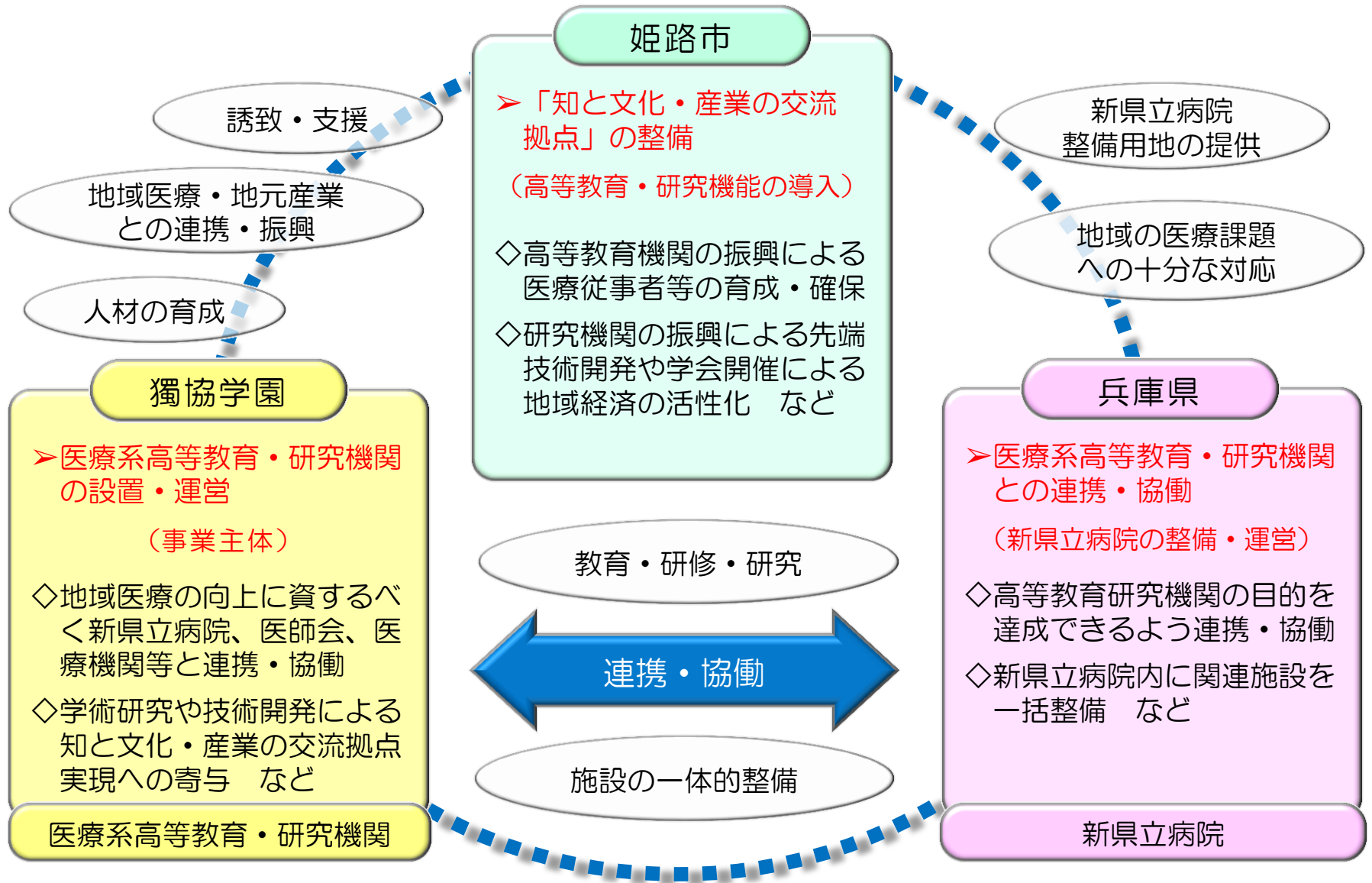


キャストィ21イベントゾーン（高等教育・研究エリア）

# 獨協学園の医療系高等教育・研究機関にかかる 協議・検討状況について

市長公室 企画政策推進室  
（中心部施設計画・教育調整担当）

# 医療系高等教育・研究機関の整備に向けた三者の役割イメージ



# 獨協学園の計画（医療系 高等教育機関）

## 獨協医科大学

### ➤ 大学院研究科

#### (1) 医療系総合研究科 姫路サテライト(分校)

##### ◇ 医学研究科（博士課程）

形態学系、機能学系、社会医学系、内科学系、外科学系など

##### ◇ 看護学研究科（修士課程）

地域看護学系、老年看護学系、成人看護学系など

#### (2) 医療系社会人大学院

##### ◇ 上記研究科に社会人入学を認めるもの



獨協医科大学 HPより

## 姫路獨協大学

### ➤ 大学院研究科

#### (1) 医療系総合研究科（修士課程）

◇ 言語教育研究科 医療外国語学コース  
複雑高度な医療言語の汎用化等の研究

##### ◇ 法学研究科 医療法学講座

医療訴訟や未然防止の法的措置等の研究

◇ 経済情報研究科 医療経済学・経営学コース  
病院経営等に関する研究

#### (2) 医療系社会人大学院

##### ◇ 上記研究科に社会人入学を認めるもの

### ➤ 学部高学年のサテライトキャンパス

#### (1) 文系（人間社会学群）

医療コンプライアンス、医療産業、  
医療外国語コースを専攻する学生を対象

#### (2) 医療系（医療保健学部・看護学部・薬学部）

新県立病院等での実習生を対象

### ➤ 医療系リカレント支援センター

◇ 離職した人や再教育を受けたい薬剤師、  
看護師等を対象

### ➤ 市民講座 など

## 計画の内容（高等教育機関）

| 内 訳    |                                       | 教員       | 学生 | 内 容   |
|--------|---------------------------------------|----------|----|---|
| 獨協医科大学 | 医学研究科<br>（博士課程）<br>姫路サテライト<br>（分校）    | 1        | 8  | 形態学、機能学、社会医学、内科学、外科学系などの分野について、医療現場に即した研究を行う。<br>◇新県立病院と連携して疾患別症例の統計を分析。社会性や地域性を模索し、地域医療への貢献を図るとともに予防医学を構築<br>◇医科大医学研究科と連携して最新医療情報を確保・実践<br>◇基礎、臨床の横断的な研究 |
|        | 看護学研究科<br>（修士課程）<br>姫路サテライト<br>（分校）   | 1        | 6  | 地域看護学、老年看護学、成人看護学系などの分野について、医療現場に即した研究を行う。<br>◇急性期から在宅医療までの地域包括ケアシステムの構築に向けた看護研究<br>◇新県立病院と連携して医療安全、感染防止を研究・実践<br>◇各種認定看護師と連携した指導看護師の育成                   |
| 姫路獨協大学 | 言語教育研究科<br>（修士課程）<br>医療外国語学<br>コース    | 本校<br>から | 10 | 医療現場で使用される複雑高度な医療用語の汎用可能性などについて、医療現場に即した観点からの研究を行う。   |
|        | 法学研究科<br>（修士課程）<br>医療法学講座             | 本校<br>から | 10 | 医療に関わる訴訟や訴訟を未然に防ぐための法的措置などについて、医療現場に即した観点から研究を行う。   |
|        | 経済情報研究科<br>（修士課程）<br>医療経済学・<br>経営学コース | 本校<br>から | 10 | 病院経営に関して、患者を最優先した上での効率的で無駄のない経営について、医療現場に即した観点から研究を行う。  |

（※社会人入学も予定）

※現時点での予定

| 内 訳    |        | 教員   | 学生    | 内 容        |  |  |                                   |
|--------|--------|------|-------|------------|--|--|-----------------------------------|
| 姫路獨協大学 | 医療保健学部 | 本校から | 延べ30  | サテライトキャンパス | 理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚療法学科、こども保健学科（養護）、臨床工学科の臨床実習  | 医療系リカレント支援センター<br>（離職者や再教育希望者を支援）<br>（市民講座の実施） | 理学療法士<br>作業療法士<br>言語聴覚士<br>臨床工学技士 |
|        | 看護学部   | 本校から | 延べ300 |            | 基礎看護学、成人急性期看護学、成人慢性期看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、統合看護学等の実習  |  | 看護師                               |
|        | 薬学部    | 本校から | 延べ20  |            | 早期体験学習・病院実務実習  |  | 薬剤師                               |
|        | 人間社会学群 | 本校から | 約110  |            | ◇国際言語文化学類医療外国語コース<br>国内の医療機関で外国人をサポートする「医療通訳者」に必要なとされる医療の基礎知識を学習<br>◇現代法律学類医療コンプライアンスコース<br>医療現場での専門的ニーズにも対応できる法律と医療の幅広い知識を学習<br>◇産業経営学類医療産業コース<br>病院を始めとする医療現場での事務職員や医療関連企業の社員など、医療に関わる者として必要となる知識を学習 |  |                                   |

※現時点での予定

# 獨協学園の計画（医療系 研究機関）

## 地域医療連携 推進センター

- 中・西播磨圏域における医師・看護師不足の解消策の研究
- 姫路市における医療・介護施設への提言
- 市民の医療参画、地域医療、公衆衛生等に関する研究
- 医師会や地域の基幹病院等との連携・協働

## 消化器内視鏡 センター

- 改良型カプセル内視鏡、レーザー内視鏡、新しいタイプの内視鏡の開発・評価・改良
- 胃・小腸・大腸のカプセル内視鏡による診断・治療研究
- 胃がん・大腸がんの早期発見
- カテーテルや腹腔鏡下の手術器具や医療用ロボットの研究開発

## 再生医療センター

- 血管内皮細胞の応用による人工血管、脊椎インプラント等の開発・評価・改良
- 血管内皮細胞の応用による人工血管の開発
- 人工関節等運動機器の研究
- 脊髄障害（損傷）への幹細胞研究
- 身体障害者用機器の開発
- 日本人に合ったサイズの脊椎インプラント開発
- 国内技術による高性能・高品質脊椎インプラント開発

## 計画の内容（研究機関）

|              | 教授等（医師） | 内 容   |
|--------------|---------|---|
| 地域医療連携推進センター | 2       | <ul style="list-style-type: none"> <li>➤目 的               <ul style="list-style-type: none"> <li>◇地域医療機能の向上の観点から、医学生物学的なアプローチに加え、公衆衛生学・社会的なアプローチによる調査研究を行い、地域の実情に応じた合理的かつ効率的な医療提供体制の構築に寄与する。</li> <li>◇健診データなど、姫路市民の保健医療に関するデータを解析し、姫路市の医療施策に繋がる提言を行う。</li> </ul> </li> <li>➤地域医療推進上の課題               <ul style="list-style-type: none"> <li>◇中・西播磨圏域における医師・看護師の不足、救急医療体制の確保、医療介護の連携体制の強化、行政と医師会等関係機関との連携強化</li> </ul> </li> <li>➤研究・事業内容               <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 国保データ、介護保険データ、死亡統計等のビッグデータの解析による姫路市における医療介護需要の研究</li> <li>(2) 医療と介護、看護・ケアの連携の在り方に関する研究</li> <li>(3) EBM(根拠に基づく医療)に基づく生活習慣病の治療に関する研究</li> <li>(4) 認知症の予防、早期発見、地域ケア体制に関する研究</li> <li>(5) 姫路市における医療・介護施設への提言及び現行の施策に対する評価</li> <li>(6) 地域介護・在宅医療に関する調査研究</li> <li>(7) 市民の医療参画に関する調査研究</li> <li>(8) 医師・看護師等の偏在解消のための調査研究</li> <li>(9) 児童虐待が及ぼす身体・精神障害に関する研究</li> <li>(10) 医師・看護師等医療従事者を対象とした研修会・講演会の実施</li> <li>(11) 医療介護の実技研修の実施</li> </ul> </li> </ul> |

|            | 教授等（医師） | 内 容  |
|------------|---------|--|
| 消化器内視鏡センター | 1～3     | <p>➤研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)カプセル内視鏡、レーザー内視鏡等の最先端医療機器の開発研究</li> <li>(2)胃、小腸、大腸のカプセル内視鏡による診断、治療研究</li> <li>(3)胃がん、大腸がんのカプセル内視鏡、レーザー内視鏡による早期発見</li> <li>(4)カテーテル、腹腔鏡下の手術器具、医療用ロボットの研究開発</li> </ul> <p>➤研究方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)新しい発想の消化器内視鏡の開発（自走式、患者の苦痛の無いバイオプシー（病理組織の採取）や治療が可能な内視鏡など）</li> <li>(2)既存消化器内視鏡の改良</li> <li>(3)消化器疾患、特に悪性新生物の内視鏡的診断・治療方法の開発</li> <li>(4)内視鏡機器・器具、診断・治療方法の開発結果を、安全性を踏まえて、迅速に臨床応用できる体制の構築</li> <li>(5)新県立病院との共同研究・臨床応用</li> <li>(6)地域の基幹病院との連携</li> </ul> <p>➤カプセル内視鏡の解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇画像の読影方法、体外からのカプセルコントロール、診断のための病理組織の採取（バイオプシー）、早期がんの内視鏡治療（切除）、消化器がんの薬物・レーザー治療、大腸診断時の前処置（下剤の服用）、低価格の実現、臨床試験の重要性</li> </ul> <p>➤その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇現状の医薬品・医療機器開発の問題点として、日本発のシーズであるにもかかわらず、欧米での臨床試験・開発が先行し、日本の患者がその恩恵を受けるのが欧米より遅れている</li> </ul> |



| 再生医療センター | 教授等（医師） | 内 容   |
|----------|---------|---|
|          | 1～3     | <p>➤研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)血管内皮細胞の応用による人工血管の開発</li> <li>(2)人工関節等運動機器の研究</li> <li>(3)脊髄障害（損傷）への幹細胞研究</li> <li>(4)身体障害者用機器の開発</li> <li>(5)日本人に合ったサイズの脊椎インプラント開発、国内技術による高性能・高品質脊椎インプラント開発</li> </ul> <p>➤研究分野</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)脊椎インストゥルメンテーション分野 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇日本人に合ったサイズのインプラント開発</li> <li>◇国内技術による高性能・高品質のインプラント開発</li> <li>◇輸入超過状態の改善</li> </ul> </li> <li>(2)メカノバイオロジー分野 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇血管病の病態解明と新しい医療機器・治療法の開発</li> <li>◇力学的刺激を応用した幹細胞の分化誘導技術の開発など人工血管・再生医療への応用</li> <li>◇運動の生体作用の機序の解明と生活習慣病に対する効果的な運動療法の開発</li> <li>◇血管系に及ぼす重力の影響の解析など宇宙医学への寄与</li> </ul> </li> </ul> |

# 医療系高等教育・研究機関と新県立病院との連携・協働イメージ



➤ 高等教育・研究機関は、  
医療機関向けの研修プログラムの構築や研修  
を実施するほか、研究成果を地域医療の向上  
に資するべく、新県立病院と連携・協働のう  
え研究に取り組む

➤ 新県立病院は、  
高等教育・研究機関が目的を達成できるよう、  
連携・協働のうえ事業を進め、本地域の医療  
課題に対応する

# 医療系高等教育・研究機関と新県立病院との連携・協働内容

イベントゾーン（高等教育・研究エリア）に整備される高等教育・研究機関と新県立病院は、相互協力のもと事業を進め、本地域の医療課題に対応すべく連携・協働する

| 区 分    | 内 容  |
|--------|--|
| 高等教育機関 | <ul style="list-style-type: none"><li>➢ 高等教育機関は、新県立病院と連携して教育を実施し、医療従事者の資質の向上を図る（社会人向け大学院教育の実施、リカレント研修の実施等）</li><li>➢ 新県立病院の高度な医療現場をフィールドとした多様な実習教育の実施により、専門知識を有する優秀な人材の育成を図る</li><li>➢ 医療現場の実態に即した教育・研修プログラムの策定や体制の構築を図る</li></ul>   |
| 研究機関   | <ul style="list-style-type: none"><li>➢ 研究機関と新県立病院の医師が連携して研究を実施し、情報と知見の共有を図り、将来的な成果に繋げていく</li><li>➢ 臨床データの収集や臨床治験の実施にあたり、新県立病院との連携により、円滑な事業運営を図りながら、相互協力による研究を推進する</li><li>➢ 新県立病院内の施設・設備の使用をはじめ、新県立病院の医療従事者と連携して臨床治験を実施する</li></ul> |

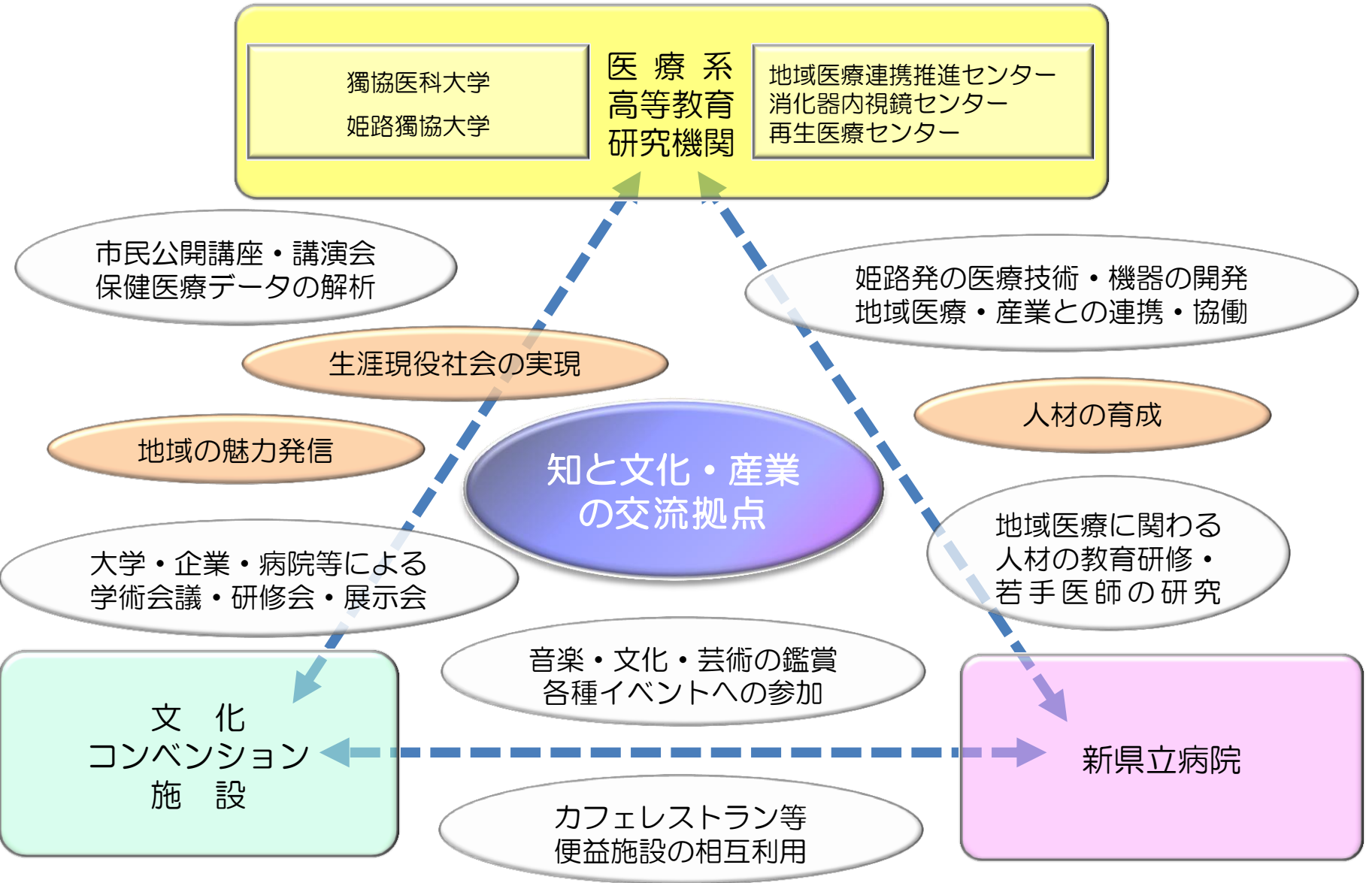
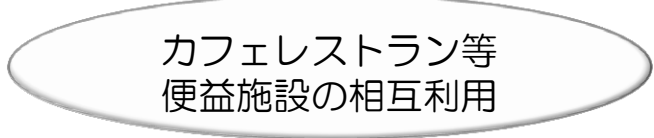
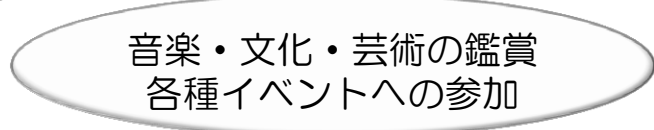
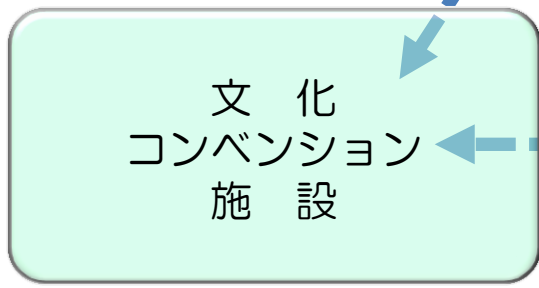
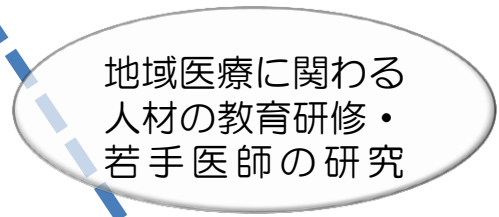
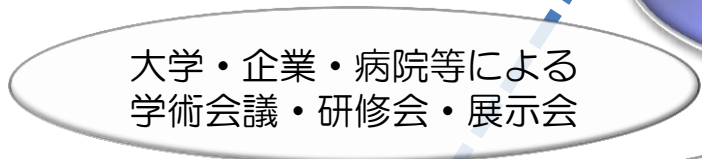
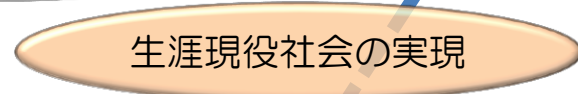
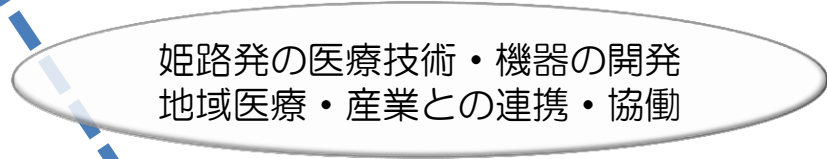
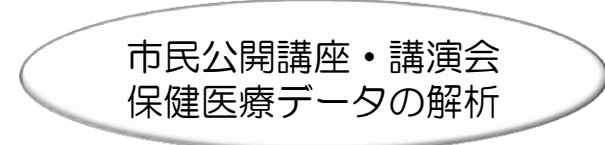
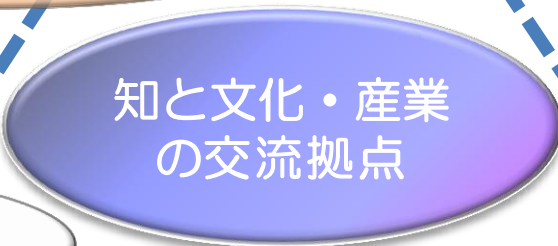
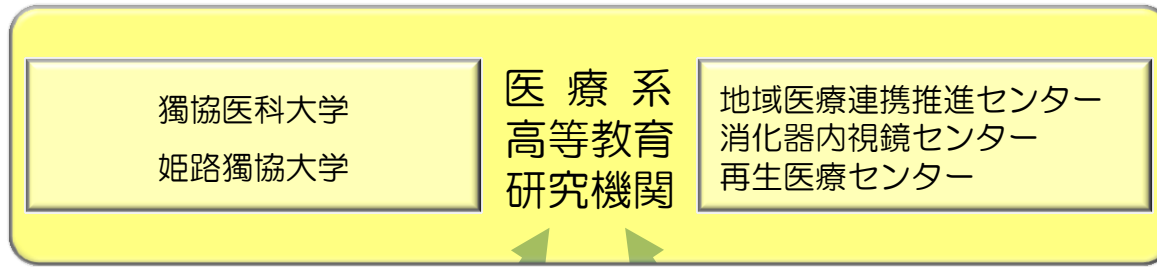
# 医療系高等教育・研究機関が本地域にもたらす効果

| 区分     | 内容   |
|--------|--|
| 高等教育機関 | <ul style="list-style-type: none"><li>➢ 医学研究科を置くことにより、スキルアップを目指す優秀な医師の確保に繋げる</li><li>➢ 医師、看護師及びその他医療従事者との連携によるチーム医療の研究と実践が可能となり、多様な課題に広い視野から総合的に判断できる医療従事者の育成を図る</li><li>➢ 医療関係者（社会人）の受け入れにより、医療現場に関わる人材育成と活性化を図る</li><li>➢ 医療機関や医師会とも連携した事業の実施により、教育効果を地域全体で享受</li></ul>  |
| 研究機関   | <ul style="list-style-type: none"><li>➢ 高齢化社会を迎える中、健診データ等市民の保健医療に関するデータ解析を通して、医療と介護の需要や連携の在り方等の研究が可能となり、施策等への提言・反映</li><li>➢ 姫路発の医療技術・機器の開発による医療団体や医療産業への知見の提供を通じた「姫路」の認知度の向上と、MICE推進による地元産業の活性化等への波及効果</li><li>➢ 新県立病院との連携による先端医療研究を行うことによる医療系研究者・医療従事者の集積や定住効果</li><li>➢ 医療機関や医師会とも連携した事業の実施により、研究成果を地域全体で享受</li></ul> |

# 医療系高等教育・研究機関の整備スキーム

| 区 分                 | 内 容   |
|---------------------|---|
| 整 備 手 法             | <ul style="list-style-type: none"> <li>➢兵庫県は、獨協学園の高等教育・研究機関設置に必要な面積（2,000㎡程度）を新県立病院内に確保し、新県立病院と一体的に整備する</li> <li>➢獨協学園は、兵庫県から高等教育・研究機関設置に必要な面積を借り受ける</li> <li>➢姫路市は、獨協学園の高等教育・研究機関に対して必要な支援を行う</li> </ul>   |
| 事 業 主 体             | <ul style="list-style-type: none"> <li>➢獨協学園が設置し、新県立病院と連携・協働のうえ運営する</li> </ul>  |
| 高等教育・研究機関と新県立病院との関係 | <ul style="list-style-type: none"> <li>➢新県立病院は、高等教育・研究機関が目的を達成できるよう、連携・協働のうえ事業を進め、本地域の医療課題に対応する</li> <li>➢高等教育・研究機関は、医療機関向けの研修プログラムの構築や研修を実施するほか、研究成果を地域医療の向上に資するべく、新県立病院と連携・協働のうえ研究に取り組む</li> </ul>  |
| 高等教育・研究機関と市との関係     | <ul style="list-style-type: none"> <li>➢市は高等教育・研究機関を誘致したことから、事業主体である獨協学園に対して必要な支援を行う</li> <li>➢高等教育・研究機関は、市が高等教育・研究エリアに導入を目指す「高等教育を支援する機能や、先端技術をはじめとする学術研究や新技術の開発などを促進するとともに、新たなイノベーションを実現する機能」を体現し、イベントゾーン全体の整備コンセプトである「知と文化・産業の交流拠点」の実現に寄与する</li> </ul> |
| 市の獨協学園に対する支援の考え方    | <ul style="list-style-type: none"> <li>➢イベントゾーンの高等教育・研究エリアに医療系高等教育・研究機関を誘致した経緯を踏まえて、これまでの事例も参考にしながら、費用の一部を支援する方向で検討しており、県にも支援を要請するなど、引き続き関係者と詳細を詰めていく</li> </ul>  |

# イベントゾーンにおける施設相互間の連携イメージ



# 参 考 资 料

# 獨協学園の組織

評議員会

理事会

監事

※H28.5.1現在 (単位:人)

| 項 目                      | 学 生    | 教 員   | 職 員   |
|--------------------------|--------|-------|-------|
| 学 園 本 部                  | -      | -     | 10(2) |
| 獨 協 大 学                  | 8,790  | 216   | 151   |
| 獨 協 医 科 大 学              | 1,722  | 1,014 | 3,348 |
| 姫 路 獨 協 大 学              | 1,919  | 176   | 70    |
| 獨 協 中 学 校<br>獨 協 高 等 学 校 | 1,242  | 56    | 8     |
| 獨 協 埼 玉 中 学 高 等 学 校      | 1,585  | 66    | 10    |
| 合 計                      | 15,258 | 1,528 | 3,597 |

※( )は外数で大学からの出向者



※獨協学園HPより抜粋  
H28.4.1現在



# 獨協学園の歴史・沿革

※獨協学園HPより抜粋

獨協学園は、明治のはじめドイツ文化を中心とする西欧文化の粋を摂取して、わが国文教の興隆を図る目的で設立された獨逸学協会（明治14年・1881年）にその端を発している。当時の文明開化の先端を拓こうとしたこの協会が、人材を養成するために設けた学校が獨逸学協会学校であった。

その後、昭和39年に獨協大学、昭和48年に獨協医科大学、昭和62年に姫路獨協大学を開学している。

- 明治14年（1881） 西周、桂太郎、加藤弘之ら獨逸学協会を設立
- 明治16年（1883） 獨逸学協会学校設立
- 昭和22年（1947） 獨逸学協会の名称を財団法人「獨協学園」に変更し、校名を「獨協中学校」に改称
- 昭和39年（1964） 獨協大学を埼玉県草加市に開学（外国学部、経済学部）
- 昭和48年（1973） 獨協医科大学を栃木県壬生町に開学
- 昭和49年（1974） 獨協医科大学病院 開院
- 昭和58年（1983） 獨協学園創立100周年
- 昭和59年（1984） 獨協医科大学越谷病院開院
- 昭和62年（1987） 姫路獨協大学を兵庫県姫路市に開学（外国語学部、法学部）
- 平成元年（1989） 姫路獨協大学経済情報学部新設
- 平成18年（2006） 姫路獨協大学医療保健学部新設  
獨協医科大学日光医療センター開院
- 平成19年（2007） 姫路獨協大学薬学部新設
- 平成28年（2016） 姫路獨協大学看護学部および人間社会学群新設

# 獨協医科大学 大学病院の概要

※獨協医科大学HPより抜粋

|                  |  |       |
|------------------|--|-------|
| 所在地              | 栃木県下都賀郡壬生町<br>大字北小林880   |       |
| 病床数              | 1,167床   |       |
| 患者数<br>(H27年度実績) | 外来患者数<br>(1日平均)  | 2,130 |
|                  | 入院患者数<br>(1日平均)  | 1,065 |
| 診療部門             | 心臓・血管内科、消化器内科、<br>血液・腫瘍内科、<br>循環器・腎臓内科、神経内科、<br>内分泌代謝内科、<br>呼吸器・アレルギー内科、<br>リウマチ・膠原病内科、<br>精神神経科、皮膚科、小児科、<br>放射線科、健康管理科、<br>病理診断科、総合診療科、<br>第一外科、第二外科、脳神経外科、<br>呼吸器外科、心臓・血管外科、<br>整形外科、泌尿器科、眼科、<br>耳鼻咽喉・頭頸部外科、<br>産科婦人科、口腔外科、<br>リハビリテーション科、<br>形成外科・美容外科、乳腺科、<br>排泄機能センター |       |

|      |  |
|------|--|
| 中央部門 | 認知症疾患医療センター、総合周産<br>期母子医療センター、消化器内視鏡<br>センター、呼吸器内視鏡センター、<br>超音波センター、救命救急センター、<br>PETセンター、臨床検査センター、<br>放射線部、病理部、手術部、血液浄<br>化センター、麻酔部（ペインクリ<br>ニック）、輸血部、時間外救急部、<br>臨床工学部、材料部、診療記録管理<br>部、腫瘍センター、睡眠医療セン<br>ター、栄養部、とちぎ子ども医療セ<br>ンター、リウマチセンター、ハート<br>センター、乳腺センター、前立腺セ<br>ンター、再生医療センター、放射線<br>治療センター、臨床遺伝診療室、放<br>射線治療品質管理室、薬剤部、看護<br>部、事務部、医療安全推進センター、<br>感染制御センター、治験管理室、臨<br>床研修センター、医療情報センター、<br>女性医師支援センター、地域医療連<br>携センター、総合診療教育センター |
| その他  | ドクターヘリ稼働数<br>累計4,116件(平成22年1月～27年末)<br>平成27年度：916件<br>※稼働件数は日本で第3位<br>栃木・茨城・群馬の3県をカバー  |

# 獨協医科大学 越谷病院及び日光医療センターの概要

※獨協医科大学HPより抜粋

|         |   |   |
|---------|---|---|
| 名 称     | 獨協医科大学越谷病院  | 獨協医科大学日光医療センター  |
| 所 在 地   | 埼玉県越谷市南越谷2-1-50   | 栃木県日光市高德632番地   |
| 開 設 年 月 | 昭和59年6月   | 平成18年4月   |
| 許可病床数   | 723床（増床後：923床）  | 199床  |
| 診 療 科 名 | 糖尿病内分泌・血液内科、呼吸器・アレルギー内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、神経内科、小児科、放射線科、総合診療科、外科、整形外科、心臓血管外科・呼吸器外科、小児外科、産科婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、脳神経外科、泌尿器科、形成外科、救急医療科、麻酔科、こころの診療科、皮膚科   | 呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、神経内科、糖尿病・内分泌内科、膠原病・アレルギー内科、心臓・血管・腎臓内科、皮膚科、放射線科、外科、心臓・血管外科、整形外科、泌尿器科、形成外科、麻酔科    |
| そ の 他   | 第6次埼玉県保健医療計画において、総合周産期母子医療センターの新設、2次救急輪番制への参加や搬送困難事案の受け入れなど、救急医療を充実する計画を申請し、200床増床の承認を受ける。<br>新たな病床や高度な医療機能を整備するため、隣接地を取得し新棟建設に着手。<br>高度機能の手術室22室、外科系の入院病棟、当直室やシャワールームを備えた臨床研修センター、教育・研修にも活用する大会議室を備えた新棟を建設中。 | 電子カルテシステムの導入<br>業務委託の導入（栄養課給食業務、医事課窓口・保険請求業務、臨床検査検体部門）<br>へき地医療機能として、日光市立三依診療所を指定管理者制度により当センターで運営 |

市長公室 企画政策推進室